

『バレイショの秋植えについて』

1. 植え付け時期

秋植えの適期は8月下旬～9月上旬になります。早く植えてしまうと、高温下では種イモが腐りやすくなり、反対に遅く植えると霜が降りるまでの生育期間が短くなり、収量・食味が低下しやすくなります。そうならない為に植え付け前に芽出しをした種イモを移植する催芽移植栽培があります。

2. 秋植えの作型と品種

作型	6	7	8	9	10	11	12	1	2	品種
秋植え			直植え ○・○	—	—	—	■			デジマ アンデス赤
			催芽移植 △…○	—	—	—	■			

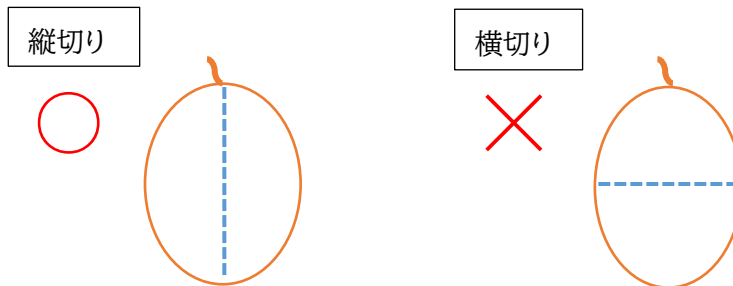
(凡例：○植付け △芽だし伏せこみ ■収穫)

3. ほ場の準備

連作を嫌うので3年以上ナス科野菜を栽培していないほ場で、日当たりや排水性が良い場所を選び、よく耕しておきます。最適の土壌pHは5.0～5.5の弱酸性で、pH値が高いとそうか病が多発しますので、石灰質資材の施用は避けてください。

4. 種イモの準備

健全な種イモを10㎡あたり2～2.5kg用意します。秋植えでは切断すると腐りやすくなるため1個植えが望ましいですが、大きい場合には切断します。切断する場合は植付けの4～5日前に一切れ40～50g(出芽率が低いので、春よりは大きめ)になるように縦に切断し、日陰の涼しい場所で陰干しします。



○催芽移植栽培について

8月中下旬から涼しい場所で催芽して地温が下がってくる9月上中旬に植付けをします。催芽方法①底に排水穴空けた発砲スチロールやプランター、トロ箱などの容器を用意します。②適度な湿りをもった川砂を敷き詰めます。③その上に陰干した種イモの切断面を下にして密に並べます(写真1)④5cmほど覆土し、表面に切りワラやもみ殻を敷いて乾燥を防ぎます。⑤8月中下旬は室内の涼しい場所に置いて出芽を促します。出芽後は軒下や木陰など直射日光が当たらない涼しい場所に移し、芽の長さが5cm程度になったら植付けします。



写真1

5. 植付け

畝幅60～70cmの畝を作り、深さ10cm程度の溝を掘り、切断面を下にして25～30cm間隔で並べていきます。その後元肥を株間に野菜いちばんを30gずつ施用していきます。7cm程度覆土し、その上に敷き藁をして地温を下げるとよいでしょう。催芽した種イモは9月中旬頃までには植付けします。この時に根や芽を傷めないように気を付けましょう。